

### (3) 与論調査Ⅰ……………面接調査

#### (A)調査の目的

与論調査(Ⅰ)によって一応明らかにされた問題的な生活の課題を、更に地域の人々の生活意識にまで掘り下げてこれを明らかにすると共に、更に又話すことはできても書きあらわすことのできないような課題や気付かない課題等について、これを明らかにしようとして行った。

#### (B)調査の方法

調査は主として面接によって行った。

調査対象は足利の全世帯13102世帯から、職業・暮しの程度・社会的地位等を考慮して127世帯を選んだ。

訪問に当ってはあらかじめ連絡をとり訪問時間を打合わせると共に、よく知っていない家庭に対しては、その家と親しくしているところの人をかいして、調査の主旨を伝えて紹介しておいて貰った。

#### (C)調査項目

調査項目並びに質問に対する具体的な内容は「市民の関心の調査」や他の調査の結果から明らかにされた事柄をよりどころにしてあらかじめ用意しておいた。併し臨機に変更してできる限り自由な、そして活発な意見を得ることにとつめた。

#### (D)調査結果

調査に際して多少ぎごちない人もあったが、大部分が極めて打とけて自分のもつ悩みや問題を卒直に話してくれた。

世間話をしながら、具体的な生活の内容について話し合っ得られた本調査の結果からは、地域の課題を明らかにする上に役立つ生活の悩みや問題を極めて多く得ることができた。

整理は興論調査(Ⅰ)の結果の整理と同様に社会機能別に整理した。

#### (E)調査期日

昭和27年10月1日～昭和28年10月31日

#### (a)生産消費

##### (イ)資本の蓄積

- ・足利の機業家にとって資本のないということが、何よりの大きな悩みでしょう。
- ・資本の力の弱さは戦後一層はげしく、それがため常に経済界の変動を手一杯に受けなければならなくなっている。
- ・足利の機屋は総身六算ですよ。いたみが身体全体なのでうごきをとれなくなっています。ひとところが何とかよくなったかと思っていると、直ぐにはかがいたんでくる。
- ・朝・夕の挨拶も機屋同志では「どうだい糸」とか「景気が悪くて弱ったなー」ということどちらかである。糸相場のうごきひとつで、みるまに倒産してしまう人もめづらしいことではないのである。戦前にはたとえ足利の機屋は弱少資本だと言われつつも、現在程にひどいことはなく、かなりの変動に対して堪え抜くことのできる資本の力をもっていた。
- ・「〇〇が倒産して、〇〇が何拾万、〇〇でも何拾万ひつかかったそうだ」などの話が最近絶えたことがない。
- ・「金だよ、金さえあれば何がなくてもいい」というのが機屋全体の気持でしょうね。
- ・税金が高すぎる。この税金さえなければ何とか経営もなりたつのだがという。そして、こう

税金が重くては営業まではとてまわらず、皆税金にとられてしまう。

- 税金は中小企業にとって命とりだ。
- 「白色申告をしているのはまだ余裕があるからだ」などと税務署では言うけれども飛んでもない話だ。帳面つけなんてやっているひまのない程、頭をなやましている中小企業者の内情がわからないからそんなことを言うのだ。
- 高利貸よりも税務署の方がひどいと思うようなこともある。
- 競争がはげしく、皆で競り合うのでますます皆苦しくなってきたのです。
- 足利の機屋さんは少し余裕がでてくるとすぐに二号さんをもつというがそういうことも確かにある。機業に打込んで生甲斐を感じるという人が少ない。
- 資本の弱い機業家が、どこからも援助されず、個人々々の力にその解決がゆだねられている。それがためどうしても個人主義になり、投機的にもなり又極端な搾取もやむを得ないというようなことにもなってくるのである。何としてもしかたのないことだ。

#### (ロ) 金融の円滑化

- どの位金繰りが苦しか、経験したものでなければどうしてもわからないでしょう、とにかく苦しいのです。お話になりませんよ。
- 銀行では小さいところへは金を貸してくれません。何とかして設備資金の長期借入れを図って貰いたい。
- 共同で貸出をしているけれども、併し金は極めて小額であり一口五万円以下であり、ほんのちよつとの間いきをつくだけにすぎない、こうした苦しさは小企業でないと到底わからない
- 手形のおちるのが97日になってしまっている現在、そんな高い利子を払っていたのでは利子かせぎさえできないと思われるような高い高利貸の金を借りなければならないのも、理屈がわからないからではなく、一時をしのがなければならない苦しさのためである。

#### (ハ) 経営の堅実化

- 経営の堅実化をはからなければならないということは、誰でもそう思っているのであるけれども、自己資本があまりにも弱いためにそれができないのである。
- 誰だって堅実な経営をしていきたいとはせいっぱい思っているのだが、どうにもこうにもやれなくなっているのだ。
- 外見より内容というけれども、外見が貧弱では銀行も金を貸してくれないし、業者から金を借りるにしても容易に貸してはくれない。外見がしっかりさえしていれば、一応安心して貸してくれる、従って外見をかざるのも今の足利では一つの資本になるのである。
- 「自転車で品物を配達するよりも、オートバイで廻ったり、又自動車で乗りつけたりした方が信用して貰える。」そんなことはないと言っても、そこは人間の心理なんて微妙なもので………、私はじめそうですからねえ。」
- 相場の変動のはげしい糸、なかでも特にはげしい人絹をあつかうのですから、かなり大きな資本がないと堅実な経営をつづけていくことができない。
- 経営の堅実化を図るためには、工場の設備の充実をはからなければならないというけれども足利の機業としてはそうとばかりも言いきれない複雑なところがある。即ち、堅実化の途として、工場の設備をいかにげんに充実したり能率化したりするよりも、賃織をうまく利用して景気の波にうまくのるということを考えた方が、比較的うまくいっているのである。
- 足利では何とか無理にも或る程度の糸を買うだけの資本ができたなら、周辺の農村が市内の機屋に織らせて、更に下職（加工業者）を泣かせてうまくもうけるというのが一番堅実である。

共同化がはかれないのであるからこうなるのも又やむを得ない。

- ・現在足利の織物生産高の約八割が賃織である。なかでも周辺農村部に出されている賃織が極めて多い。しかもこの農村の賃織はいくら安くてもぎりぎりまで我慢してくれる。従つて足利では景気が悪くなればなつたで絶対安全な賃機に誰もがよりかかってくる。

#### (=) 生産技術の改善

- ・まねることは上手であるが、自分から考えて新しいものを作ろうとする態度が作られていない。
- ・〇〇のところの織物が売れているとなるとどこでも素早く、そのサンプルをとり、糸のよりを分析してさらし工合をしらべ、上手にまねて殆んど同じような品をつくり急いで売り出す。このようにしてまねた方が、自分から考え出すよりも利益になる。
- ・毎日ちよつとのひまもなくやっついていかなければならないので、研究までは手がまわらない。
- ・小さな工場だから技術の改善をやろうとしても限度がある。ぎりぎりの時間とにかく仕事をしなければならぬから、技術の改善などまでは手が廻らないのだ。賃織の中には何千人何万人というかくれた技術者がいる。しかもこの人達はいざとなれば徹底した安い賃賃でやるために、少し位な技術の改善をやってもやらなくても同じである。
- ・賃織の女工はかなりむずかしい機でも10丁・12丁と「ひ」を使いこなして織ってくれるので現在の織物を取扱っている限り、技術の改善などそんなに考えなくてもよい。
- ・技術だけいくらすぐれていても金が残るとは限らない。それよりもどうやってもうけるかに一生懸命になった方がこの土地ではよい。
- ・技術をもっている人が尊敬されない土地柄が改められなければいいものはできない。
- ・経済のしくみが徐々に改められて、技術の改善ということが常に本当の利益をもたらしてくるようにならなければ、本当の意味の生産の振興はないのであるがそうなるまでは時間がかかる。
- ・資本のしつかりした工場では徐々に技術の改善を行つてきている。この入達の基礎は益々しつかりしてきている。

#### (ホ) 生産の計画化・合理化

- ・T工場・M工場・Y工場のような或る程度しつかりとした資本をもっているところでは合理化・計画化をすすめてその成果を収めてきている。
- ・諸産業の合理化が何であるかを、しつかりととらえて、何をにおいてもこれをすすめないで足利はさびれていく一方になってしまう。
- ・或る一つの織物がいいとなると、誰もが、ワット飛びついてまねをするが、やがてそれが不利になったときに極めて無計画な転換をする。それがため大きな損失を受けなければならない。
- ・生産に計画性をもたせようとせずそのとき勝負である。
- ・足利の工場経営者は工場主或は事業家というよりも糸商と言つた方が適切ではないかとさえ思われる。もつと極端なことを言えば投機屋のようなものかも知れない。自己の工場の堅実な経営に全精力を傾注するという考え方に欠けている。
- ・熱し易くさめ易い。そしてはじめのうちは一生懸命やっているが、すぐにあきてしまう。

#### (ヘ) 機械設備の改良

- ・生産にとって本質的なものと思われぬ住居や外郭の見栄を張ること、更には人とのつき合い等に無駄な金を使い、工場や機械設備のような生産にとって本質的なものに資本をまわそ

うという気持がうすい。

・商工業の発展のための調査研究を一層力強くすすめ、商工業者を援助しなければならない。

(ト) 仕事に対する熱意と努力

- ・機敏であり、理解が早く話がすぐわかる。この土地の人は他の地区の人々に較べてのみこみが早い。これは熱意があるからである。
- ・生き馬の目を抜くような機敏さとたくましさがある。
- ・進歩的であり、常に新しいものを求めて、それに深い関心を示している。
- ・進取の気象がある。
- ・これはまずいといつまでもそれに喰いついていることなく、素早く転換して次の仕事にとりかかる。
- ・生産意欲が強く勤勉でありよく働らくことはたしかだと思ふ。
- ・不況の際にもねばり強く堪え抜いて生産をつづける。
- ・感情に流されたりほだされたりして損をこうむるということが足利の人々にはあまりない。
- ・大した金もうけはできないけれども或る程度ならよくもうける。
- ・商才に富んでいて、宣伝上手である。
- ・熱意もあり努力もするが、努力するのはしなければならぬような立場に立たされて追いかけられたときである。その証拠には少し調子がよくなると金がたまると、道楽にふけて仕事の努力をゆるめてしまう。

このような熱意がみとめられていると共に又その反面、

- ・営業道徳を重んじない。
- ・ソロバン根情が強過ぎる。
- ・目先の利潤追求のみにふけり、製品に対しても上べだけをよいようにみせかけて責任をもたない。
- ・あまりにも粗悪品であるために、ぬれたときには紙のようにすぐやぶれてしまうというような品物を、もうかるとなればいくらかでも高く売って、一回ぎりの勝負をやる。こんなことがあるために足利の製品の声価はますますひどくなる。
- ・金もうけだけがこの世の中で何よりも大切だという考え方が支配的である。  
金持が極端にうらやまれたり、又尊敬されたりするために、人々は金もうけのため努力するのである。
- ・汗を流して働らく勤勞をさげすみ、汗を流さないで上手に金をもうけることのできる職業だけを一心に追いかけて、それにあこがれるという傾向が強い。
- ・自分も楽をして金の多くもうかる仕事に何とかありつこうとして、毎日々々の努力をないがしろにする傾向がみられる。
- ・小成に安んじて大きな計画をたでないうらみが多い。それというのも、足利の大きさが現在程度であつてはそれもやむを得ないのかも知れない。
- ・短気であつて、関西の商人のようなねばりが無い。
- ・こせこせしてスケールが小さく、大阪商人や大きなところの実業家のような腹の太さがない。
- ・足利の人達は他の土地の人達に比べて仕事に対する熱意もあり努力もする。併し、こうしたことも困るからするといふのであつて、あまりたよりにもならない。それが証拠には、少しよくなると、すぐに仕事をないがしろにして道楽にふけり、うまくなくなってしまう。

## (ル) 同業者の協力

- 利己的で協同性が足りない。
- 同業者同志の共栄心なんて業にたくもない。皆自分だけよければいいという主義であるからだめです。
- どうやってみてもどうせ協力なんてしないのだから、足利市全体の計画的な生産を図ろうなどと一部の人が言ってみても、どうせだめにきまっている。
- 協力することもできるときがある。ただしそれは景気がいいときだけであって、悪くなると皆、他人を押しつけても自分だけもうけようとする気持が強い。併しこれも止むを得ないことです。
- 長いものにはまかれる主義かも知れないが順応性があり、同化性にも富んでいる。
- 団結心があるが自覚して団結しているのではなくてただわけもわからずに団結しているだけというきらいがある。
- よい指導者があれば団結できるのであるが、よい指導者がでてこない。

※このような言葉がよくきかれるけれども、人々のこのような話の背後には、次のような事実がひそんでいるのである。

- 織物業者が大同団結しなければ足利の織物は大きな資本をもった工場に圧倒されて、次第にさびれていってしまいそうに思われる。
- 自分の家や家族などのように、縁故のあるものの間では協力するが、他とは同業者でもあまり協力しない。
- 同業者の申には協力してやっていかなければだめになってきたと考えるものも極めて多くなってはきたが未だ他人がだめだからというので協力できない。
- 協同しても他人がうまくやっしまえば自分だけが馬鹿をみる。損をするよりは自分だけでも努力して何とかやり抜いた方がよい。
- 「他人を押しつけても自分のところだけ何とか残らなければならないという考え方は、確かにほめた考え方ではないかも知れない、併し不況になってどうにもなくなってしまったときのことを考えれば、それもやむを得ない。」という考え方が極めて根強くほびこってあって、人々は必要以上に利己的となり、協同して不況をのり切ろうという気持が折格生れてきてそれが弱められてしまう。
- 糸や織物のように価格の変動のはげしいものを取扱っている関係から、共同でやっておったのでは、大切なもうけどきを失うということが多し、又損をしなければならぬときにも個人的な判断で察早く処理するということができないために、少しの損失でくいとめてしまうということができない。
- いいときには、わいわいあつまって協同してやっていくけども、いざ値が下つてくると、他人はどうでも自分だけは損をしないですむようにと、我先にと逃げて約束などはあまり守られない。
- 長い目でみれば他人と協同してやることの方が利益になることなのかも知れないけれども、そんな先のことだけを考えているわけにはいかない。私達の頭の中は、今をどうしようかということ一杯である。
- いくら努力してもうまくいかないことが長くつづくと、しまいには誰かうまくやっている人がいるとそれがねたましくなり、ひきづりおろしてやれというような気持になるのだ。
- 他人の成功をことさらにねたむ心が強い。

- 他をおとしいれ、自分だけ伸びていこうという気持ちが戦後一層強められてきた。
- 僅かな利益の違いで大きく問題にするので協同化がうまくいかない。
- 機業家の利己心が強く、資本や技術や作業の協同化ができないという声は、戦前からであったけれども、資本が弱まり生活が苦しくなってきた。この利己心は一層はげしくなってきた。従って協同化しなければならないという気持ちも戦前よりも必要感が増しているのに協同化は一層むずかしくなってきた。
- 戦争中並びに戦後、未だいろいろなものが配給制であったとき、有力者といわれるこの地域での中心的な人達が、先に立って自分に都合のいいようなごまかしをやり、もうけたということがあった。このようなことは人々の心のなかに、いやなしこりになって残っていて、「どうせ組合なんてつくっても、又先に立つ人にうまくやらしてしまうのだ」というような気持ちをおこさせる。
- うまくやった人達の派閥意識と業者の雷同意識とが先になるために同業者同志の眞の団結ははかれない。
- 足利の織物の特質は糸使いと柄に生命があるのであって、これは協同していたのではその生命が失われてしまう。そこでなかなか協同化をはかるということがむずかしい。
- どんな不景気がきても賃織に依存している限りそれ程大きな損失を受けないですむところがある。これがため人々は協同して不況に当ろうとするよりも、このような賃織を上手に使うことによって利益を収めたり、不況を切り抜けたりしようとする。

#### (リ) 足利市の工業の全体計画

- 織物業だけでなく他の工業も大いに取り入れてやっつけていかなければならない。
- 賃織業者をもっと組織化してその生産性を高めなければならない。
- 大工場をもっと誘致して足利市全体の経済力を高めなければならない。

#### (ヌ) 労働組合

- 大資本のしわよせは足利のような小資本によせられる。而してこうしたしわよせは更にここで働いている被使用者に大きくよせられてきている。
- 低賃金を是正しなければ働らく人達の生産性は向上しないと思われるが、併し賃金をあげれば、現状では経営者も一緒に倒れてしまう。
- 経営者は景気のよいときも、もう少し無駄な出費をつつしむべきだ。このような出費はできる限り最少限にとどめて、不況に際して活かすように考えなければならない。
- 工場の経営が苦しくなると何よりも先ず工員を減らそうとする。しかも、そのときになつても、自分達の暮しは殆んど切りつめるというようなことをしないで大名ぐらしをつづけている。給与その他の待遇について使用者と交渉しようとしても、使われている人達がまとまりがないために、何か言つた者が損をしてしまう。少しはつきりとした意見を述べるようなことをすると、たゞ仕事については、随分骨惜しみせずに使用者のためを考えてやっておつても、「ああ奴か、奴は仕事はするけれども、俺のところには金のことについてうるさいからな——。」といわれてしまう。そしてどこへいってもあまり歓迎されないで一種の札つき扱いをされ烙印をおされてしまう。
- 使われている人がありあまっているために、使用者はいつでも、好きな人を、好きだけ使うことができる。そこで人を使うとき、使われる人達のことなどあまり考えないという傾向がある。
- 組合をつくるというようなことは破壊的な考え方をする人達のすることだという考え方が未

だ極めて根強い。

- 労働組合のないことを誇りとしているような人達が少くない。
- 足利人は穏健だ、それが証拠には労働争議が起らない。……極めて多くの人達からこうした意見をきかされる。
- 労働者の中にも最近特にやることをやらないで自分の権利ばかり主張しているというような人がふえてきた。

#### (ル) 農業の近代化

- 百姓は失敗すればその年一杯取りかえせないのだ。従って受ける打撃も大きい。新しいやり方をあまり考えなしに取り入れても失敗する率が多く危険である。あわてないで本当に失敗がないとわかってから取入れた方が安全でよい。
- 何といったって、現在行われている方法は昔からあらゆる経験をつみ重ねていい方法として残っているものなのだ。これを守っておればまちがわかないですむ。
- 誰か進歩的な人があつて（特に青年）改良された農を取り入れて、ときに失敗するようなことがあると、あることないことその人の悪い点をうわさしてその人をおとし入れようとするような気風がある。
- 百姓はまずいものを食って骨を折って働らいていれば間違いがないという考え方が強い。
- 「〇〇さんなんかも地味な方法で百姓をやっておれば、あんなにひどい生活をしないで済んだものを」といって、農法の改良や新品種の取入れに対して進取的なあまり失敗をしたというような人を一笑にふしてあざわらう。
- いくら近代的だとか機械化だとかいってみても、人の手ほどうまくいくものは発明されてない。人手でやれる限り首が折れても体を動かした方が増産できる。
- 又人手にかなうものはないと言いながらも、機械を使って能率化している人に対してひげめを感じている。
- 科学化し機械化してみたところで、どうせ浮かされた暇を有効に使うことができないため無駄に使ってしまい却って金がかかって損になってしまう。
- 近代化し、機械化をすすめる上には是非とも行われなければならない。耕地整理や農地の交換分合が、目先のちょっとした利害に心を奪われる人達が多いために容易に進まない。それがため機械化や合理化が遅々としてすすまない。

#### (ヲ) 多角経営の促進

- いくらやろうと思っても、私のような学のないものにはできないという諦めが極めて多い。
- 市場の様子がわからないからうつかりやるわけにはいかない。
- 作物栽培について、惰性に流されて栽培が行われており、科学的に考えるという態度が作られていない。
- 家畜飼育の知識が全体的に欠けており、又遅れている。
- 〇〇さんのように学があれば（〇〇氏は農学校を出ている）本を読んだり試験場などへいったりして新しい栽培法や技術や市場の様子などを知って利益をあげることができるのであるが、俺達のような小学校だけでたのではどうしようもない。
- 「いくら景気が悪くなくても、日本の百姓全体が食えなくなるというような政策はどうせとられないからそんなにあくせくしなくてもいい」というような、半ば諦めのような言葉をしばしば耳にする。

- ・畜種や種苗を改善しなければならないという人が少なく、大多数の人がこの問題をそれ程重要なこととして考えていない。

#### (フ) 土地改良

- ・土地の不適もあまり考えないで他の人の作ったらしいという作物を考えもなく取入れて失敗することが少ない。自分のところの耕地の土質についての科学的な知識に乏しく、又あまり考えない。
- ・土地改良のいいことはわかっていても、金がないからそちらまで廻せない。

#### (カ) 農産物の価格の合理化

- ・農産物と農家の購入する肥料・農具等の価格とのバランスがとれていない。又価格の決定についても理窟に合わないところがある。
- ・百姓の生産物が他の諸物価に比して極めて安定性を欠いており又その決定も需要と供給だけから定められている。このような不合理性を強く主張しなければならない。
- ・生産費との関係において農業経営が成り立つような米価やその他の農産物価を定めて欲しいという正しい主張を強力に推進すべきだと考えている人達が少ない。

#### (コ) 農業政策の確立

- ・共済組合や災害補償の必要は感じているけれども、それをするためには結局遊んでいるような仕事しかしないで俸給をもらうところの役人を作らなければならない。この役人達のために莫大な経費がかかる。そして結局役人を養うために組合をつくるというようなことになってしまう。
- ・役人なんて結局いい名目をつけて百姓にたかる油虫みたいなものだ。

#### ※併し又

- ・牛が死んだとき補助がきて、実際の損害は2,300円位にとどまった。
- ・組合に勤めている人が、もつと百姓の苦しいことを知って、農家の問題を自分の問題として考えるようにならなければだめだ。
- ・共済組合や共同組合等における僅かな不正が強く意識され、延いてはそのやり方全部に対して不信を示してしまっている。
- ・不正融資や横領・着服等が役所において行われていることを噂以上には知ってはいるけれどもこれを皆んなと一緒に力を合せて是正しようとする気持が殆んどない。そしてあわよくば自分もそんなことにあやかりたいと考えているような人達が多い。

#### (ク) 農業の機械化

- ・〇〇さんはこの近辺でも熱心だから常に機械なども新しいのを取り入れて能率をあげているけれども、経済的には案外ゆとりがないようだ。金が残らないのだったら何も苦勞して機械化する必要もないように思う。最近になって機械化というようなことを大きくしてすすめているけれども、現在のところでは機械化してもあまりもうけはないようだ。
- ・いくらいい機械がつくられても人の手でやる程にはうまくいかないものだ。
- ・米や麦ばかりでなく、すべての作物が骨折しさえいとわなければ土地が狭く人手は充分あるのであるから、矢張り手でやった方が沢山とることができる。
- ・耕地が今のように小さく区分され、しかも他人との境界がまがりくねっているには機械を使っても仕事の能率があがらない。
- ・日本の農業技術は遅れていると盛んに言われているけれども、日本位狭い面積で比較的多く



の収穫をあげているところは他にないではないか、こうした点を考えれば今迄のやり方でいいのだ。

機械化しても、あと楽をして遊んでいたのでは何にもならない。却って機械化したために遊ぶことで金をつかってしまうようなことになる。

- 身体をすりへらすような勤労を殊更尊いものとする気風が極めて根強く、それがため機械化して疲労を少なくするというようなことは、あまり歓迎されない。
- 若い者が機械化して能率を高め、より一層合理的な経営を行おうとしても、このような若者の考えを、ただ「この頃の若いものは骨折り仕事を嫌って樂ばかりしようとしている」というようなことを言ってこれをはばんでしまう。
- 機械化したり畜力化したりすることの必要なことは充分わかっているのであるけれども、それに必要な金がないため、どうにもならない。又機械を取り入れても、機械器具の構造やはたらきを十分に生かすための基礎になる知識がない。
- 機械をとり入れてもいいけれども故障でも起されると全く厄介だ。
- 何人かの篤農家や学識のある人・資産家等の一部の人達は、かなり進んだ機械化をしているけれども、これが極めて個人的な使用しか行われていないため、使用される回数から考えても多くの問題を残している。
- 機械はどんどん改良され進歩していくために、へたにあわてて買くと、あとで損をしなければならなくなる。……この場合にも共同使用によれば、次々と新しいものを取り入れることができるということについてあまり考えてない。
- 新しい機械を取り入れて上手にやっている人が、すすんでそのよいところを多くの人達・特に若い人達に伝えてもらいたい。
- 共同して使用すれば確かによいことはわかっているのであるけれども共同してやるためには自分の都合のいいようにばかりはいかないし、又公共のものという、取扱いに無理をじていたみがはげしく、個人もちの半分も使えない。
- 共同していたのでは使いたいとき使えないからというので個人的に機械を買い入れる人があるが、その人達はそれがどの位の経費を要して一年間どの位使われるものであるか、そしてその結果がどうかというようなことについてはあまり考えないように思われる。
- 機械化の功績といえば、ただ農繁期中の人手を軽減させることだけでよいと考えている人達が少くない。
- 機械化能率化のためには、色々な問題（農地の交換分合・土地改良・耕地整理等）が、多くの人達の協力によって強力に押しすすめられなければならないといよことについて、人々はあまり真剣には考えていない。
- 農業技術の機械化・能率化を図る上に必要となってくる知識を自からすすんで身につけようとする意欲が足りない。
- 「百姓はどんな不景気がきても食うものだけはもっているから困らないですむ」というような単純な考えから、農業技術の改良や向上のために努力しようとならない人達が案外多い。
- 暇ができると人間はろくなことは考えない。むしろひまがなくて仕事に追いかけれ、いくら骨を折っても終らないという方がいいというようにさえ考えている人達が少くない。年輩者だけでなく、若い者にも極めて多い。

#### (レ) 正常な農民組合の発達

- 組合員同志の利己心が強すぎて、強く組織の力を発揮することができない。

- ・農地解放のときの地主対小作人の感情のもつれ（小作人は地主に対してざまあみろ、地主はこれに対していまにみている、というようなもつれ）が後までも残り又農民組合員同志の利益分配のもつれなどが残されていて、農民全体の立場を守り有利に展開しなければならない等の農民組合の力が強まらない。
- ・農地解放のときは農民組合としてまとまっていたが、そのまとまりも結局のところ自分の利益だけを中心にしてすべてを考えていた人達のもつれであったために、農地解放が一段落ついた現在ではその声が急速に弱くなってしまった。

#### (ソ) 資源の愛護

- ・生活を合理化して無駄な消費をできる限りきりつめ資源を生産にふり向けなければならない。
- ・部屋の構造・カマドの改良などによって日本の国全体としても特に重要視していかなければならない木材資源を大切にしなければならない。
- ・電力資源の愛護に關係してのことであるけれども、メートルでない家庭は料金に変わりがないからというのでつけ放しにしておくというようなことが行われている。

#### (ツ) 土地利用の高度化

- ・空地利用をもう少し考えれば充分生かせるのにそれをやらない。
- ・傾斜地の活用をはかるべきだというけれども、まだ充分利用されないところの山林や傾斜地など活用しなくてもいいような境遇にあるために、そんなところを利用しようと考えない。

#### (ネ) 観光地帯の整備

- ・足利公園の開発を図り、もつと整備された公園として市民並びに地域外の人々のいこいの場所にする必要がある。
- ・織姫社をもつと整備し、その価値を高めよ。
- ・足利学校やバン阿寺の史蹟としての価値を高めるように整備すると共にその宣伝に力を入れよ。
- ・大日境内を遊園地として開放しこれを整備して近辺の人達の来遊を図るべきだ。
- ・観光地として旧市内の名勝地ばかりでなく、名草・北郷などのものも宣伝していくべきだ。
- ・渡良瀬河原を周辺を観光地として整備し宣伝するといひ。
- ・観光施設が整備されて人々が集まれば商店も盛んになってくる。
- ・足利市全体の美化に力を入れて観光価値を高める必要がある。
- ・形の整備も必要だが、足利の人々が外来者に対して常に誠意に満ちた応待をすることはより一層必要である。
- ・足利の人自からが、足利学校やバン阿寺の価値についてもつと深い認識をもつ必要がある。

#### (ナ) 国土の保全

- ・洪水の原因の除去に関して、一応犠牲になる人達に対して皆が深い理解を示すと共に犠牲になる人も大きな視野に立つて協力する必要がある。
- ・山の人達だけではなく町の人達も保全についての理解を示さなければならない。

#### (ラ) 貿易の振興

- ・輸出ものは変動がはげしいので險である。
- ・内地ものは比較的变化がなくいいけれども、外貨の獲得という意味から一時は多少の犠牲を払っても輸出の基礎を作るために皆が力を合わせて努力しなければならない。

- 財閥の罪も多いけれども輸出などを伸ばすために是非とも復活しなければならない。
- 現在のような足利の貿易不振は戦前あつた財閥がなくなったための輸出不振が原因だ。
- 目先の利益だけを追っていたのでは外国貿易は振興しない。もっと先のことを考えて一時のうけは犠牲にしても力を合わせてしのび貿易の振興を図らなければならない。
- 粗悪品やごまかしたものを売っているから外国貿易が伸びないのだ。
- 外国貿易が伸びないのは日本人が馬鹿正直で商売の下手なところがあるからだ。外国の商社は資本をもっているからということもあるが商売が上手である。
- 足利の品が外国に売れないのはめいめいが競争をして自分達の力がなくなってきたため或の程度強くこちらの立場を主張できないからだ。なめられるだけなめられて結局何にもなっていないというのが現状である。戦前はずっと皆が協力して外国商社にわたり合ったからかなり強力にこちらの立場を主張することができたのだ。
- 内地の人達が、もっと国内物価を下げるための匱乏をしなければ日本国内の物価高が原因となって輸出はいつになっても伸びない。

#### (ム) 外交の円滑化

- 外交の円滑化というようなことを我々のようなものが言つてもはじまらないが、米ソ両方との交渉をうまくやらなければ我々のような中小企業の苦しさは救われまいだろうし、又日本も伸びられないのではないか。
- 小さな景気・不景気だけに心を奪われて、足利の機業の真の発展のため、広い視野に立って外交関係というような国家的なうごきに心を払っているいとまがない。
- 中国との貿易が盛んにならなければ足利のような機業地は盛んにはならない。
- 「よらば大樹の蔭に」という諺もある。どうせつくならソ連よりは金をもっているアメリカについていた方が得だ。
- 国民全部が国の外交というようなことを自分の問題として考えるようにしむける必要がある。多くの人達が外交というようなことは偉い人がやると考えている。

#### (ウ) 消費の適正

- 家計簿をつけて合理的な生活を設計していこうとする人が極めて少ない。
- 家計簿をつけて合理的な生活を営むことは極めて大切なことであるかも知れないけれども現在のように少ない収入では全く足りないのだからどうにもならない。
- 給料が満足にきちんと貰えるならば家計簿もつけようとする気もおきるのだけれども毎月貰えると予定した給料が一月遅れになったり二月遅れになってしまったり、しかも又全部払えないから半分で我慢して貰いたいというような状況では、全く見通しがつかないからつけようとする気持もなくなってしまう。
- 足りない足りないと言いつつ、酒はのむい、パチンコはする、競馬はするでは、ますます足らなくなるのではないか。そういう無駄を切りつめて生活をきつていこうとすれば何とかなるのだ。
- 今の若い者は自分本位であつて、自分の家がどんなに困つても力を合わせてその苦境を切り抜けるために苦しみ堪えて力を合わせていこうとしない。好きな服はつくる。新しい流行を追つた靴はつくるのであるため、いよいよ苦境に追いこまれてしまう。
- パチンコや競馬などにみな金を使つてしまつて、妻子の生活費を殆んど持ってこないような人達も少なくない。「うちでは貰つた給料をみんな競馬とパチンコにつきこんでしまつて私のところには五人もおつて一月千円位しかもつて帰らないのです。こんな有様なんです」と、

四人の子供をかかえて母親が涙ぐむ。

- コップ酒は一人で二合ものんで100円払いながら家に残してある妻子五人のためにはうどんのための醤油を僅か五円買っていく。
- 生活扶助を受けている人達や、扶助は受けなくても非常に困っているといわれる人達のうちで随分多くの人達が金が入れば入ったで、明日のことを考えず餅菓子を食べるなどして、やっと入った金をかるがるしく使ってしまう。
- 金のある人達は又金のある人達として二号さんでももたなければ働かない位に考えている人達が多い。
- 成り上り者の常かも知れないけれども虚栄を張り、無駄な出費を身の程もわきまえないで平気でやってしまう。それがため後に大切な事業資金にまでくいこんでしまう。
- 七五三や稚子まつりの際に必要な以上に多くの金を使って親の虚栄心をみたしている。——機業地のことであるからやむを得ないと思われる点もあるが、度がすぎる。
- 「表面だけでも常に景気がいいというようにみせておかないと、あそこのうちは左前か？」といわれて商売がやりずらくなってしまう。
- 冠婚葬祭のときの費用はあまりかけないようにしようという考え方がひろまってきて一部の人達は最近目立って簡素化を行うようになってきた。併し又一方では前よりも金をかけて派手になってきた人達もある。
- 又結婚するにあたって、親から作ってもらえるのはこのときだけだからというので、どうせつくって貰うならうんと作って貰おうという女性の考え方が、このような簡素化をはばんでいる。
- 自分では簡素化しなければならないと誰も考えていながら近所の人の手前もあって自分だけそうするわけにもいかないところがある。
- 多くの親達が、娘は他家へやっしまえば、これから先長い間苦勞しなければならぬんだし、又もっていったものが少ないというので切ない思いをするのでは可愛想だからどうしてももたせてやらなければならないという。特に母親の間にそうした気持が強い。
- お茶のみ話などのときは、どこそこの娘は何と何をもってきたそうだななどという話が多くされ、まずい噂をされまいとして無理をしても嫁入りやそのときの式に金をかけようとする。
- 収入については小さなことにも敏感であるけれども、そのわりに支出についてこまかい心をつかわない。
- 景気よかつたときのことを考えて、その日暮しをあまり苦しめない。
- 食生活を合理化しようとする態度がみられない。
- いそがしいので栄養のことなどがまわっておられないという人が多く腹が一杯になればよいという。
- 家のしきたりで栄養のある食物が作れない。
- 主人の好ききらいが強く食生活の合理化がはかれない。
- 台所の設備が悪く能率的な処理ができない。
- 生活の苦しい原因をただ収入のないことだけにかこつけてしまっただけで諦めている。
- 収入を考えて生活を合理化し食べものについても美味よりは最低の栄養確保を目安にしている。こうとする人が少なく、衣料も実用を主にして、みえやかざりを少なくしようとする人が少ない。そして又切りつめた生活によって、やがて計画的な生活をするのできる余裕をつくらうとする人が少ない。

- 貧乏だ貧乏だといって食べるものなど随分ぜいたくであり着物なども流行を追って金を浪費する。
- 困ってきても「あそこのうちであんなもの(安物)を買うようになった」などといわれるのがいやで、つい無理をしても高いものを買ってしまう。
- 近所のつき合いや、流行に流されて、生活の簡素化や合理化ができないでいる。
- 若い者の考えなしに流行に流されて浪費する風潮が強く指摘される。
- 衣料の利用技術が低い。
- 古い習慣を断ちきることができないうで、たんすの中にしまうような品に金をかけている。
- 田畑山林の収入がいくらであるか、総収入がいくらであるかを長期にわたり計算して生活を設計することができない。
- 「百姓の収入はすくないというけども、食うものは計算されないからである。これを計算に入れればたいしたものだ。」などという自己満足によって、少ない収入を諦めている人が少なくない。
- 足りないときは不作のせいにしてたり、何かの災難のせいにしてその不足の原因が、このような不作や災難を計算に入れられない計画性のなさにあるということに気付かない。

#### (エ) 国家的立場に立つ消費の適正

- 無駄使いをしよう、ぜいたくをしよう、自分の金でぜいたくをするのだから何も他人からとやかくいわれる筋合いはないというような主張をする人が少ない。
- 自分の金で分に應じたぜいたくならぜいたくとはいえない。その人はそれだけ働きがあるのだからそれでいいのだという意識を多くの人達もっている。
- 「誰だってできることなら早く金をためて好きなぜいたくができるような身分になりたいものだというようなことは考えているのではないか。」というような意見をよくきく。
- 「イギリス人やドイツ人のように、自分達は上等の酒はのみず、いいものはみんな輸出して国を富まさなければならぬと自覚して耐乏している。それを、日本のような戦争に破れた貧乏国の国民が殆んどぜいたくな品を考えなしに浪費してしまうというようなことが少なくないが本当に残念なことだ。」

#### (d) 交通・通信・運輸

- 足利の発展を図るためには道路網の完備が何よりも大切だ。
- 道路の舗装を急ぐことが何よりも急務だ。
- 主要道路を拡張して街路樹を植えることは交通の便と共に衛生的にも又美観の上からも是非必要なことだ。
- 市の南北に走る道路に力を入れて周辺農村との結びつきをより密接とすべきだ。
- 貨織に足利の織物が大きく依存していることから周辺農村との交通網の整備は重要な意味をもってきている。
- 足利市の発展は東京との交通の便不便に大きく依存している。東京との交通の便を図るための努力は何にもまして重要視されなければならない。
- 足利がかって渡良瀬川によって東京と結びついているがためにこれだけの発展をしてきたことから、東京との交通の便が足利の発展にとって欠くべからざるものであるということを知ることができるであろう。而して又現在、足利が東京周辺の都市のすばらしい発展に比べてあまりかんばしい発展を示さないのも、東京との距離が大きくへだたっているからである。東京との距離 時間的につめるために努力しなければならない。

- ・長期の都市計画を立て、道路の拡張をする（拡張と同時に舗装もあわせていく）
- ・自動車が大きくなったために特に道路が狭くなった。
- ・交通量に比較して何といっても道路が狭い。どうしても拡張が必要だ。
- ・大通りを人道と車道とに分けて街路樹を植えたい。
- ・一時の苦痛はしのいでも、大手術によって道路を拡張しなければならない。
- ・多少の交通違反がよくおこるけれども道路が狭いだから全くしかたがない。
- ・現在のように大通りの商店がならんでしまつては、大通りの拡張は無理である。裏通りに広い道路を新設して一方交通にでもすることがまず必要である。
- ・市内も表通りはまだいくらかよいが、裏通りのデコボコは極めてひどい。一日も早くなおして貰いたい。
- ・拡張と共に舗装も計画的にすすめて貰いたい。
- ・競馬の利益金で道路の舗装をせよ。  
助戸の新道の舗装を急いで貰いたい。
- ・日赤、税務署に通ずる道路の舗装。
- ・柳原から江川に通ずる道路の舗装。
- ・市役所の廻りだけが舗装されたが、市民としてはそれ程必要ではないところだ。
- ・舗装はあとでもいいからまずデコボコ道に砂利を入れて欲しい。
- ・市のローラーを遊ばせておかないで新市域の道路の石でもうめて欲しい。
- ・もう少し道路のみずまきを徹底させて、ほこりの立たないふうにして貰いたい。
- ・交通規則を守らないものが多くしやくにさわる。
- ・スピード制限が守られていない。
- ・道路の邪魔物をとりのぞくようにしないと、たださえ狭い道路が一層せまくて危険でならない。
- ・商店が多く道路を占有して困る場合が少なからずある。
- ・パチンコ屋のところに自転車立ちならんでいて交通妨害だ。
- ・交通整理と指導がよくなされなければだめだ。
- ・大山とワンプラーとのところが危険である。
- ・中橋には歩道があるにもかかわらず車道を通る歩行者が多く危険である。
- ・対面交通については子供達がよく守るのに大人で守らない者が多い。
- ・対面より従来のような交通が危険が少ないのではないかと思う。
- ・対面交通はどうしても危い。
- ・足利市のようなせまい道路では対面交通では無理だ。左側交通ならだれも一方に歩いているのであるから避ける余裕がある。
- ・自動車のライトが高いところを照らしているから危険である。
- ・東武線の増発とスピードアップを図るべきだ。又車輛の整備を図って欲しいものだ。両毛線の電化と車両をまめに動かすべきだ。
- ・電化が行われるまではディーゼルカーを増発するようにして欲しい。
- ・市営バスを経営してみてもどうか。
- ・田中橋を自動車の通れるような橋に早くしたい。
- ・街燈を増設した方がよい。電力会社でその位はサービスすべきだ。
- ・終車の時間が10時では早すぎる、せめて11時位までは運転して欲しい。
- ・自動電話にして交換時間を短縮して欲しい。いまのままだと終つてもなかなかきれないこと

が多い。

- ・従業員の中には極めて親切な人もおるが、一方又極めて不親切な人も少くない。
- ・子供の遊び場のないせいもあるが、子供が道路で遊んでいるため危険である。

### (c) 保健娛樂部会

- ・人々は伝染病をむやみに恐れながら、そのくせ正しい防除を行わない。
- ・伝染病に関する知識が不足しているのと公徳心が弱いため、伝染病をかくす傾向が強い。
- ・伝染病をかくすのは伝染病が極度にきらわれ異常に恐れられるためである。
- ・食料品店などで伝染病患者を一人出すとその店はつぶれてしまうという。又つぶれてしまった例も一、二に留まらずみんな商売替をしている。
- ・予防注射をきらい、かくれてやらない人達が少くない。
- ・夏の消毒をもう少し徹底的に行つて蠅や蚊のいない町にする必要がある。
- ・市庁舎を新らしくするよりも、下水を整備して市民が住みよい町にしてくれるような政治を当局に望む。
- ・渡良瀬川の水を市内に引き入れて、下水をきれいにすることが大切である。
- ・下水設備が悪いので夏になって少し大きな雨が降ると家屋浸水の恐れが多く、非衛生的である。
- ・下水掃除をしたあとは、すくいあげた汚物をもっと早く片付けてもらいたい。
- ・市の下水のうち栄町、緑町、助戸方面の設備は特にわるい。
- ・大日の堀さえきれいにできない位だから他の下水のきたないのは当然かも知れないけれどもそれにしてももう少し努力してほしい。
- ・子供達が平気で汚物や危険物を下水に捨てるというのにこれをとめようとする大人が少ない。
- ・下水にゴミを捨てる大人が多く、下水をはきだめのように考えている人が少くない。
- ・道路にゴミを捨てて平気である。
- ・痰やつばを道路に平気でする人が多い。
- ・禁示の立札を無視して平気でゴミを捨てる。
- ・ゴミを捨てるにも子供に対して人に見えないように捨ててこいなどという親が案外多い。
- ・道路や、他人の家のへいのところで立小便など平気でして気にもとめない。
- ・公衆便所をもっと多くしてもらいたい。
- ・公衆便所があまりよごれていて気持が悪い。
- ・ゴミをまめにとりにきてもらいたい。箱にあふれていてもとりにきてくれない。
- ・裏通りのゴミも表通りと同じように処理して欲しい。
- ・不燃性のゴミを処理して貰いたい。
- ・ゴミ車の置場が人家の近くであるため極めて迷惑する。
- ・便所のくみとり場所を工夫してもらいたい。
- ・糞尿処理をより広汎にして料金を安くし無償で配布するようにして欲しい。
- ・便所の消毒をもっと徹底的にやる必要がある。
- ・蚊や蠅のいない町にするということは誰も賛成なんだけれども、みんな個人主義だからだめだ。
- ・蚊や蠅を駆除しようという運動を起しても「どうせできるものか」といって協力しない人が多い。
- ・ねずみ退治をもっと回数多く徹底的にやって欲しい。

- ・金がないため「自分は結核かな？」と思っても、早期の健康診断を受けることができない。
- ・金がないため、治る病気もおすことができないでいる人達は決して少くない。気の毒に思う。
- ・結核だということを断定されのを恐れて健康診断を受けないような人がまだ少くない。
- ・結核患者には何とかしてもっと安い費用で治療してやれないものなのだろうか。
- ・結核のような長い病気に対しては無料で治療してやるわけにはいかないか。
- ・健康体にいるときには保険金を払うのが馬鹿々々しいというので健康保険の制度がなかなか広まらない。
- ・小さな商工業の事業の使用人に対する結核対策をもっと推進して貰いたい。
- ・結核患者に対する市の保護をもっと強化するようにして欲しい。
- ・保健所と連絡して市は結核患者のうちのまわって面倒をみて指導する必要がある。
- ・農村部と比較して中心部の衛生思想は進んではいる。併しその中心部でも衛生のことなんか考えてはおられないという人が多い。
- ・迷信的な人だちや明らかに非科学的だと思われる民間療法にまだよりかかろうとする人達が少くない。
- ・市の衛生課に衛生に関しての指導部を設ける必要がある。
- ・衛生課の仕事振りにはまだおやめく的なところが多い。
- ・いくら非衛生的だからいわれても、それを改めるためには多くの金のかかる現状では到底できない。
- ・僅かの心づかいで今よりずっと清潔になると思われるところがあるのにそこが清潔にならない。
- ・日光消毒や掃除・洗濯など、もう少し無駄な時間を切りつめればやれると思われるのにやらない。心のもちようで不衛生になっていると思われる家庭が少くない。
- ・衛生普及の講演会のようなものは町内のような狭いところで毎日の生活と結びついた問題として指導されなければ効果があげられない。
- ・保健所や日赤病院の充実によって医療施設の充実をはかつてほしい。市立病院の設置を考えてみてはどうか。営利本位でなく患者の経済を充分に考えた対策を立てるように考えてやれたらよい。
- ・周辺の町村に比べれば大分計画的な指導対策が立てられているがより一層計画的な予防治療の対策を考えて欲しい。
- ・普通の開業医はもうけ本位だし、保健所や日赤のようなところはお役所仕事であって親身さが無い。何とかならないものだろうか。
- ・保険証の患者とそうでない患者とを区別する医師が少くない。
- ・保健所を利用すれば安く、いいのに、皆けいえんしているようである。
- ・保健所を現在のように一ヶ所だけではなく中央部と東部へも設ける必要がある。
- ・保健所のニュースカーはなかなか評判がいい。
- ・母親の育児知識が低く、丈夫になれる子供も弱くしてしまうようなことが少くない。「うし」づくり胃腸をよわくし風邪を引き易いような身体にしてしまうのは母親の育児知識の欠陥が影響している。
- ・農村ほどではないが妊産婦の知識が不足しているため、母体の健康と共に生れてくる子供の健康までもそこねてしまうことが少くない。
- ・未成年者の飲配喫煙は、子供達の健康並びに性格の形成に対して極めてうまくない影響を及



ほすから嚴重に取締らなければならない。

- 現在より格段と性病対策を強化しなければならない。
- 足利では結核よりも性病対策が問題にされなければならない。
- 寄生虫に対する人々の関心は最近とみに高まってはきたが、まだ全体的には関心が薄い。
- 麻薬の使用が最近急速にましてきているが当局の対策はなまぬるい。
- 私達の知っているだけでも昨年三倍位になっているのではないか……ヒロポン患者。
- 青少年の心がむしばまれていくような出版物や映画などの製作を良心的にするような対策が考えられなければならない。
- 市民運動場の設置。
- 市民体育祭の復活をはかつた方がよい。
- めいめいが自分のうちの便所やその他のきたなくなり易いところを清潔にしなければならないという気持を高めれば市全体が目立ってきれいになるのではないか。
- 住宅の近くに豚を飼わないで欲しい。
- 道路を町内毎にでも清掃し、街路樹を植え、これを愛護していくようにすれば足利市全体がずっと衛生的になる。
- ツベルクリン注射をより一層奨励しその後の指導も充分行う必要がある。
- 理髪や浴場、特に浴場における公衆衛生が守られない。入浴に際してよごれたところを洗わないまま浴槽に入ってしまったたり、石鹸を一杯つけたまま入ったりする人が極めて多く又ひどい人は浴場で咳やつばを平気でする。
- 子供を見廻って非衛生的なもの、危険なものは売らせないように監督して欲しい。
- 春秋の大掃除を徹底させることが衛生上必要である。
- 健全な娯楽をもちそだてるためにまず健全な遊びのできる遊び場を設けよ。
- 子供達の遊園地をいくつか設けて欲しい。できれば各町内に一つ位は必要だ。
- 大人は子供の遊び場について、もう少し深い関心をもたなければならない。
- 子供達のための健全な娯楽が不足していることが少年犯罪の大きな原因になっている。
- 子供達が帰宅してから安心して遊べる遊び場が欲しい。
- 有料でもいいから子供のための遊園地が欲しい。
- 長期計画の下に市営の遊園地をつくって欲しい。
- 大人と子供と一緒に遊べるような遊び場が欲しい。
- 地区別に、ブランコ・すべり台・砂場などをもった小公園をつくって欲しい。
- 現在あるハイキングコースに腰掛けをつくる必要がある。
- 川原の空地を利用した遊園地をつくる必要がある。
- 岩井に釣やボートの遊園地をつくる必要がある。
- 助戸山を遊園地にしたらよいと思う。
- 投機的な気分を一層あおるパチンコは廃止すべきである。
- パチンコで昼間から日を送っている青年や壮年の人達が何と多いことだろう。なぜかわしいことだ。
- パチンコが健全娯楽だと言うけれども、非常に多くの人達にとって家庭不和の原因となり、又精神的にも浪費を行うような態度をつけてしまうのであつたら、たとえ一部の人達だけ健全に遊んでも、それを健全娯楽とは言えない。
- 市財政上しかたなしにやっているのではあろうけれども害も又極めて大きい競馬や競輪を早くなくせ。

- 競馬や競輪を全国的にも廃止せよ。
- このごろの町の人達は全体的にみて遊びごとばかり考えているようである。
- 娯楽や何のかんと言つて、もつと仕事にせいを出さなければだめだと思ふ。
- 楽しむための運動競技でなくて、勝敗にこだわりすぎて楽しむ態度が作られない。
- 青年などの対抗競技も、敗けてしまうから恥かしいからいやだと言ふ。
- テニス・ピンポン・野球場のような、健全な娯楽場を設置しなければ不健全娯楽は追放できない。
- かけごとでない娯楽場を設置しなければならない。
- 一部の金持やひま人のための立派な娯楽場でなく、大衆が自分たちのものとして楽しめるような娯楽場を作らなければならない。
- 女性向きの健全娯楽場、年寄にもできる娯楽施設をつくるとよい。
- 農村地区にも娯楽施設をつくるとよい。
- 市費でピンポンの施設を市内各所に設けることがよい。
- テニスの施設をつくれ。
- 野球施設をつくるように。
- スポーツセンターをつくるように。
- 大プールをつくって欲しい。
- 勤労者のための夜間体育館の施設を設けて欲しい。
- 室内競技場を設けよ。
- 現在の市の財政から考えて無理と思われる点もあるが、市庁舎にひびきするような公民館を作つて貰いたい。
- 大きな公会堂や郷土史館を設けよ。
- これだけの市で常に市民が集つて資質の向上をはかるような公会堂がないのは残念である。
- 公民館は無料で貸して欲しい。さもないと青年会の集りなどはもてない。
- 大日・足利公園・織姫神社の神社仏閣を利用して遊園地施設を充実することが必要だ。
- 家族全部で楽しめるような大きな総合グラウンドの設置を考えて欲しい。
- 総合グラウンドの維持・管理は市営にしどんな人達にも気持ちよく使えるような配慮が望ましい。
- 顔のきいたなれたものだけが、わがものがおに使つているようなことのないように管理して欲しい。
- 無料映画の回数を増し、又その質を向上して欲しい。
- ナイトでいいから無料映画を月一回位は是非やつて欲しい。
- 学校でも月二回位はよい映画を指導しながら見せて欲しい。
- 市営映画か、或は映画館と特別に契約して大衆料金で見られるような機会をつくつて欲しい。
- 金もうけだけでなく人々の心の糧になるような映画を上映するよう努力して欲しい。
- 映画館に老人のための席を設けて欲しい。
- 映画館の位置が一個所に集りすぎている。
- 年令別のナイトシヨウを設けるようにするとよい。
- 健全な楽団の育成を市の援助によつて図ることが必要だ。
- レコードコンサートをもつとまめにやるように。
- 公民館を設置するようなときにはあわせて音楽堂も設けるようにして欲しい。
- 良書の充実をはかつてほしい。

- ・読書指導によって図書館の利用をより一層図るように担当者は努力してほしい。
- ・俗悪な雑誌から青年を守るためにも青年に良書に親しませるよう努力してほしい。
- ・絵の会をもっと援助して向上を図れ。
- ・スクエアダンス・クラブを作れ。
- ・周囲の山に家族づれで静かに歩けるような散歩道路をつくれ。
- ・家庭娯楽を充実するように商業主義に引きつられないようにする。
- ・婦人の仕事を男子がもう少し受持ち家庭を楽しみの場所にする工夫を婦人にさせるといい。
- ・教育関係者がもう少し地味なしかも積極的なレクリエーション指導に熱を入れてほしい。
- ・ひまがないひまがないなどと言いながら随分時間を無駄に費している人が多い。
- ・余暇を作り健全な娯楽を行う人が極めて少ない。特に農村の人達は慰安と怠惰とを一緒にしている向きがある。

#### (d) 政治・保全

##### (イ) 自治

- ・選出した議員を充分に監視し公正に批判しようとする意欲がない。
- ・優秀な議員を選出せよ。
- ・市政に対する市民の認識を高め政治家をボス化せしめないようにしなければならない。
- ・議員は市民ともっと話し合って政治を行え。
- ・政党政派を超えて議員が市の発展のために政治をとるようにならなければならない。
- ・市会議員は公約を実行に移すように努力しているのか。
- ・協力して市政の革新を図り、能率的な金の使い方を考えて貰いたい。
- ・市民の声をきくために討論会のようなものを設け、謙虚に耳を傾けるようにならなければならない。
- ・目先の小利に目がくらんで選挙に当って買収されるという人が少なくない。買収するような議員は当選すれば必ずそれだけの金をどこかで不正にもうけてしまうのだから結局損になるということをそれ程考えない。
- ・選挙の際支持しなかったという根強いうらみやにくしみが選挙が終ってから、うまくいかないことが多い。
- ・「選挙のあと、うらまれたり、にくまれたりすることがいやだから直接自分の利害に大きく関係しない限り、皆んなの支持する人に投票する」という人が多く、そういう考え方が温健でいいという風潮が強い。
- ・政治をやる者は或る程度悪いことをするのが当然とし、それは働らきがあるからだというような考え方がかなり強い。特に年輩の人達に多い。
- ・「町内や部落で推せんする候補者に対して支持しないときには皆からいやな目で見られるだけだし、あとあと異端者扱いにされて気まずい思いをするのでかなわない。」と言う。
- ・近所の人なんだからというので投票してしまう人々が少なくない。
- ・公の席上で正しいと信ずる意見をためらわずに言うような人々を、まだ破壊的な意見の持主として異端者扱にする傾向がみられる。
- ・市民の多くが政治に対して積極性をもっていない。どうやって金をもうけようかということにすべての気持が向いている。
- ・政治に対して関心を示している人のことを一口に「奴は好きだからな——」と行って、あざわらうような批評をする。

- ・「長いものにはまかれろ」「でるくいほうたれる」「よらば大樹の蔭に」などという考え方が強く、正しい自分の考えを全くおしつぶしてでも権力や勢力のある人にへつらい従おうとする。
- ・権威にへつらわないで、正しいと信ずる意見を卒直に主張しようとするような人は一口に「奴は変っているからな——」というようにいわれて変人扱いにされてしまう。
- ・権威や権力に対して多くの人達が卑屈であり、意気地がない。
- ・自分より弱い者の前では空威張り威張るが、強い者に対しては手のひらをかえたようにへいへいしている。
- ・自己の経済的な活動において比較的進歩的な意見を述べ行動する人たちも政治的には固ろうであり、保守的である人たちが多い。
- ・利己的であり、自分を守るのに忙がしく、最近の不況を皆の団結によって政治をうごかし、中小企業の不安定さや不況の永久的な解決を図るための態勢を作ることができない。
- ・公僕意識を市職員に徹底させ誠実な人がより多くなるように考えられる必要がある。
- ・市職員の中には誠意のある人も少なくないが、なかには一体誰のために仕事をしているのかわからないような吏員も少なからずある。
- ・公務員はあくまで公僕意識を失わないでほしい。若し失うような吏員があつたら、多くの人たちがこれをきびしく批判しなければならない。
- ・役所の告示をもっとわかり易いことばにしてもらいたい。
- ・自由競争が弱肉強食になり易く弱い人たちの立場がいつも苦しめられるという、自由競争の矛盾については誰も改めなければならないと感じてはいるが、さりとて、統制によってそれを改善しようとしても今のような質の悪い公務員では戦争中のあのいやな官僚主義やいろいろが横行し、ずるいものだけがとくをするというようなことになってしまうから、統制にからだ社会主義政策は全くごめんだ。

#### (ロ) 適正課税

- ・正直ものが馬鹿をみないような税金のかけ方をしてほしい。
- ・税金が全く不公平だ。
- ・力の弱い者に対しては査定がきびしく、又それを改めてくれない。取立もきびしい。
- ・機業の不振なときは思い切った減税しなければ機屋はみなつぶれてしまう。できれば市のようなところは思い切って出費をきりつめ、税金を安くし、経済の変動に堪えていけるような機業家をより多く作っておかないと足利は本当には発展しない。
- ・市税にはそれ程ひどいと思うことはないが、国税は全く無茶苦茶だ。査定にしても、取立てにしてもとられる方の立場など少しもかえりみない。最初からおつかぶせであり悪人扱いである。
- ・誰がみたって明かに利益があると思われるところに何故か税金が極めて軽く、それにひきかえて我々のようなもうけの少ない貧乏工場には容赦もなく税をかけてくる。借金までして納めなければならないというような馬鹿げたことがあっていいものなのかと、ときどき腹が立ってくる。

#### (ハ) 政治の組織や機構の再編成

- ・市役所の中の組織や機構の改革が、吏員の個人的な名利や権力欲や感情的な対立などのために多少にかかわらずゆがめられ、改善の方策がはばまれていというような話を耳にするが本当なのだろうか。

- ・県や国の政治組織や機構が施策を遂行するために作られるのではなくて役人の名利の栄達のために作られるのではないかと思われるようなふしが極めて多い。
- ・官吏が多すぎる。あの程度の仕事なら、一般の人たちの仕事の量からおしていくと、今の半分の人員で終るだろう。あんな仕事をしていいのでは個人経営ではすぐにつぶれてしまう。

### (=) 社会計画化の問題

- ・恒久的な都市計画を立てて市発展の基盤を確立すべきだ。
- ・工場地区・商業地区・住宅地区・特殊地区を定めよ。
- ・渡良瀬川の水を市内に引き入れて市内の美化を図れ。
- ・総合的な開発計画の樹立を急ぐと共に、失業救済事業として着々と実施に移すべきだ。市民の協力によって理想的な中都市を出現させたい。
- ・市内の山林を住宅地区として整備し、計画的に解放せよ。
- ・区割整理をもっと計画的にして、長期の見通しのもとに実現のためのあゆみを一步一步あゆむべきだ。

### (ホ) 中小企業対策

- ・中小企業対策として、何が最も効果的であるのか明確でなく、従って一時しのぎのものが多い。
- ・少し位な資金を融資して貰っても現在のような状態では弱肉強食となってしまう。
- ・いいとなれば皆その仕事に取りかかり結局皆が苦しんでいる。
- ・利己心が強くて 中小企業の危機打開のための根本的な問題となっている協同化がうまくいかない。
- ・中小企業は何と言ったって大企業に圧迫されてこれから先ますます苦しくなるだろうけれども、やらなければ食えないから一年のがれにつづけているのだ。  
足利のようところは柄や糸使いを工夫すればまだやっつけていけるというが、こう競争がはげしくては共倒れになる。
- ・放置すれば足利の 機屋は皆倒産してしまうというが、そんなことはない。倒れていくのは、もともとのなまけものなだから、そんなにかまう必要はない。

### (ヘ) 衣食住対策

- ・足利の織物の悪いところを知っているので足利の人が足利のものをよろこばない傾向がある。
- ・足利でよいものを先ず作り足利の人達がこれを用いるようにならなければならない。
- ・足利の織物業者がよいものを生産するようにならなければ足利はこれ以上発展しないだろう。
- ・生産者と消費者との計画的な結びつきによって、価格を安くするようにすることが大切である。
- ・周辺の疎菜と市消費者との密接な提携をはかり、むだをなくし、コストを下げた両者の利益を確保することが必要である。
- ・生産者は消費者のことを考えて良心的な品を出すようにしないと結核は栄えない。
- ・消費者は生産者の立場を考えて引き合うように提携する。
- ・為政者はもっと家のない人の悩みを親身になって心配するようにしなければならぬ

い。

- ・今の市営住宅よりも、もっと庶民的な安易なものをつくってもらわなければ貧乏人には入れない。
- ・一番同情しなければならない人達には住宅がなく、それ程でない人達の住宅は次々と建てられている。
- ・市営住宅が現在のように高いのでは機屋や染色屋に勤めている者にとっては、いつになっても入れるみこみなど立たない。
- ・高給者や収入の安定した人達だけが入れるような立派な市営住宅やアパートは不必要である。
- ・現在のような立派な住宅を1戸作の代りに2戸立てて困窮者を救うことがどれ位足利市の住宅の問題を解決してくれるかわからない。
- ・住宅で一番困っているのは収入の安定しない日給取であるのに、現在のところこうした我々日給取りのための住宅対策は全く考えられていない。
- ・鉄筋アパートもよいが、あまり費用がかさむから、今直ぐ役に立つような家を多くつくって欲しい。
- ・政府もそうであるが、自治体としても住宅不足の解消のためにもっと努力し人々の心にゆとりを取りもどさせるようにしなければだめだ。
- ・これからの若い人達の将来を考えても、住宅不足を解消してやりたい。
- ・間借りしている気苦勞は借りている人でなければわからない。仕事など手につかないことがある。
- ・一軒の家に三組も入っている、なくてもいい争いや気がねが大変で、とても神経がつかれて、お互にやり切れない。
- ・アパート建設にもっと力を入れてほしい。住の問題は衣食住というが衣よりも切実で大きいのだ。
- ・アパートは若い者のためにもっと盛んに建てるべきだ。
- ・個人では信用して貰えないから市で金融のあつせんをして貰いたい。
- ・市が援助して、或る程度金をもっている人には家が建つような方法を強力にすすめてもらいたい。例えば低利資金のあつせんと、公債によって建てるというようなことを考えてほしい。
- ・住宅金融公庫の利用を指導する。
- ・市と市民で建築法人を設けて早急に家を建てるといい。
- ・競馬の利益のようなものは、できる限り多く、住宅建設費に廻すような政治をとるようにしてもらいたい。
- ・若し市の予算があるなら市庁舎の新築よりは、市民のための住宅資金にまねすべきだつと思う。
- ・市の自動車も最低限にして、それを民生のために用いなければならない。
- ・役所でああいう家が建つならもっと住宅に対する援助がなされていい筈だ。
- ・市民の苦しみを考えると新庁舎は不快である。
- ・市営住宅地が特定な地区に片寄りすぎているようであるが、もっと幾つかの地区に分散されるべきだ。
- ・住宅の入居せんこうに不公平がないようにしてほしい。特に個人的な情実からくる不公平は皆の氣持を暗くする。

- ・市の公務員に関係深い人達に特に貸されるむきがないとは言えない。
- ・現在の市営住宅は特権階級のものだ。
- ・新築家屋に助成金を出してほしい。
- ・家屋に対する固定資産税を思い切って引き下げてほしい。
- ・私設の貸住宅も引き合うようにしたい。
- ・田畑から宅地への転換がもう少し簡単にできないものだろうか。
- 大きな宅地をもっている人は少しでも解放するような気持ちをもってもらいたい。
- ・老朽家屋の修理の指導を考えてほしい。
- ・不景気になってくると二・三男の問題は深刻になってくる。
- ・農家の二・三男は特に家業を分けるということができないから外に出なければならぬ。ところが受入れてくれるべき都会の工場は人員を整理しなければやっていけないというような状況ではどうにもならない。
- ・世の中は何よりもまじめが大切だと言うけれども、併しだれも彼もまじめにやるようになったとき、一人もあぶれないでいられるだろうか。結局は誰かあぶれてしまうのではないか。
- ・二・三男も可愛さにおいては長男とかわらないけれども、土地をわければ全体がつぶれてしまうのだからどうにもならない。
- ・いまのように困ってくると人は誰でも自分だけはいい仕事にありつかなければというので、いろいろな情実が行われるようになる。
- ・困窮者や失業者の生じてくる原因を、ただ一途に個人の人の柄や能力だけのせいにしてしまうがあまりではないだろうか。そして政治や社会組織のまずさが原因なのだとということについて深い反省と世の中の事柄に対する批判が足りないのではないか。

#### (ト) 失業対策

- ・未亡人・身体障害者やその他の能力の劣っている者に対する目のかけ方が大きく不足しているのではないだろうか。こういう人達でも皆と一緒に幸福に暮していくことのできるような政治を強く押しすすめてほしい。
- ・「丈夫な人達でもいまのところどうにもならないのだから、未亡人や身体障害者がめくまれないで生活がやつとであつても当然やむを得ないのではないか」というような考え方がかなり強く残っている。
- ・全般的な不況なのだからしかたがない。
- ・「どんなに安くてもいい、どこかしっかりしたつぶれる心配のないところで使ってもらいたい」というような考え方が多くなってきている。
- ・こう苦しくなると政治も何もあつたものではない。安心して食えるのであつたら共産党だって自由党だってどちらだっていい。
- ・もう今のように苦しくなると皆やけ糞ですよ。

#### (チ) 婦人少年労働の問題

- ・このごろの子供は楽をして金になるところばかりをさがして、肉体労働のような骨の折れることや、外見のきたない仕事には就職しようとしぬ。
- ・何んのかんのかんと言ってこのごろの子供は「我慢」ということが足りない。
- ・職につく時期が遅すぎる。あまり理くつを言うようになるという子供ができない。

- この頃の子供は理屈だけは一人前でやることは半人前にもいかない。これは教育がわるいせいもある。
- このごろの新制中学を出た子供は理屈ばかり言っているというけれども確かにそうだ。併し学校の先生がこの子供はしつかりしている子供ですと保証してくれた子供は矢張り非常にいい。このことから先生達の考え方が悪いのではないことはわかる。
- 小さいうちからしこまなければいい職人にはなれない。
- 新制中学三年は長すぎる。もっと早いうちに見習をさせなければいい商人にはなれない。
- 内職の賃金はあまりにも安すぎる。

◎以上のような意見は人々の考え方をそのままのせたのであって、これらの意見のうち、あるものは当然、否定されなければならないと思われる意見も少なくない。

#### (リ) 社会補償制の強化

- 健康保険証の患者に比べてお粗末に取扱われているという傾向があるようだ。
- 健康保険の本当の意味を自覚せず、金を毎月納めていて使わないでは損だというので、それ程必要とも思わない状態であるのに、治療を受けるという人が少なくない。又医師の中にも良心的でない人がおつてごまかしを行うようだ。
- 役所につとめている人は保険証が使えるから本当にいい。病気であんなに入院しておつても一銭もかからないんだから本当に羨ましい。
- 商人や町工場などは大きな病気になってしまうと治療費のために家がぐらついてしまう。
- 一般の人は金がないため、病気になつても、少し位では医者にもかかれない。それがため手遅れになるようなことが多い。
- 生活扶助や教育扶助を受けなければ損だという考え方が強い。
- 生活扶助を受けながら扶助を受けない人よりもぜいたくをして過している人が少くない。
- 困っていると思われる人達でも援助してやらなければ気の毒だと思つうような本当に困っている人は何人もいない。あとは皆自分がなまけたりぜいたくをしつたりしているために困つているのであって、たすける必要はないのが多い。

#### (ヌ) 保全

- 渡良瀬川と袋川との改修が終つて一応ほつとした。
- これからまだ終つていないところを早くなおしてほしい。
- 足利には大火がないので安心してられる。
- 大火がないと言つて、いつ、どんなことがおこるかも知れないから注意をおこたつてはならない。
- 警察も割合によくやつてくれているので安心である。

#### (e) 教育・芸術・宗教

##### (1) 民主的な人間関係の樹立

#### ◎家庭の民主化

- 中心部に比べ農村部は特に封建性が強い。——(農村の青年)
- よめは家の人達の話の中にあまり口を出さず何も言わないで働らくことがいいことだというよめな気風が強い。多くの家庭がそういう雰囲気になつている。
- 民主的な家だつて、誰か中心になつてやつていく人がなければだめだ……こうした意見は旧來の戸主権のようなものがなければだめだという考え方と、そうではなく民主的な中にも指



導的立場の人がおらなければうまくいかないという二つの立場から語られている。

- 男女平等は必要だが、男と女ははじめから違っているんだから、矢張り別でなければならぬ。……こういう意見も又、両性の特性を生かし、より民主的な家庭を建設していくために必要だという考えと、旧来の男性優位を肯定するような考え方の両方から支持しているようであるが、後者の考え方から主張している人の方が多い。
- 戦争前に比べて年寄も大分民主化されてきたけれども、まだ家庭や社会において青年の立場が理解されず青年の考えがおしつぶされ易く青年の活躍が正しく育てられないでいる。
- 「新しい民法では子供が親の面倒をみなくてもいい」というようにきめられているというがそんな馬鹿な話はない。
- 老てはは子に従えということもあるからしかたがない。……(註)比較的理解があるという親のことばとして語られてる。
- うちの親は全く理解がない。(註)特に農村の青年の誰の中の中に多い。
- 結婚についても、お互の家柄や貧富が問題にされている。
- 子供のしつけなどで夫やしうととの意見があわないので嫁が苦勞する。
- 町のように若い者の意見が取入れられるようになれば農家も発展すると思う。
- 嫁にいくなら町へいきたい。いくら苦しいところがあっても農村程ではないから。
- 学問をやらせるだけの金もないし、百姓するには学問は邪魔になる。老いると百姓なんて仕事はいやになる。
- よい百姓になるにはこれからは矢張り学問が大切だ。(註)前者よりも少しく多い。併し心の底ではどうか疑問だ。
- 女の意見があまり取りあげられないからと言って、どこのうちでもそうなのだからしかたがない。

### ◎職場の民主化

- 役所や先生の世界の民主化を先ず実現してかからなければならない。
- 職場を民主化するためには、先ず各人の責任を明らかにして、それぞれ責任をとるようにしなければならない。
- 人事でも情実人事が行われる。

### ◎社会生活の民主化

- 役員を選出というようなときには、まだ家の格式というようなことが問題にされる。
- 以前程ではなくなってきたが、結婚などの際にも古くからの家の格式などが意外に重視されて当事者同志の考えが無視されているというようなことが少なくない。
- 町の中流は特に格式というようなことはあまり考えなくなつて、本人さえしっかりしていればいいという考え方が急速に高まつてきた。
- 近所の人達の表面立った話し合いがうまくもたれないため、うわさや蔭口が盛んでありそのうわさが気になって生活の合理化や能率化がはかられない。
- 近所同志のつき合いは無駄なことが多いということは、わかっているのだけれども廃止することは容易でない。
- 年輩者は何か仕事をする際に若い者の意見をもつと取りあげた方がいい。ただ若い者の意見だからというだけで、立派な意見が取りあげられないことがままある。
- 若い者が年輩者の集りの中で発言すると生意気だというような気風がまだかなりある。発言した若い者の家庭が経済的に豊かでないときには特にひどい。

- ・同じように働いていても、女性だというだけで男性より給与が低い。社会的な地位が低いのである。
- ・蔭ではいろいろと使用者に対して文句を言うけれども、いざとなると黙ってしまう。使われている人達が弱いから民主化がはばまれているという点もみのがせない。
- ・使用者に対して交渉しようというので、先に立ってやっても自分のことがまずくなると、皆知らぬふりをして自分だけの安穩をはかろうとする。
- ・人のためにやっても結局自分だけが悪者にされてしまうからつまらない。

## (ロ) 衣・食・住生活の改善

### ◎生活の改善

- ・生活は一日一日と苦しくなっているが、これも全体的にそうなんだからしかたがない。
- ・生活を合理化するために計画を立てようとしても、入ってくる金の計画が立たないのだから計画化のしようがない。
- ・一日々々の生活に追いかけているのであるからどうにもならない。
- ・如何に苦しくても考え方一つで改善の余地があるのであるから、改善の意欲をもたなければならぬ。
- ・戦争中のような質実さをもって、今迄頑張れば、もっとよくなっていた筈である。生活を楽しむのもよいが、じっくりと考えて楽しむという態度がまだ必要ではないか。
- ・七五三のようなときの衣服には競争で金をかける家が少なくない。
- ・普段着にもっと金をかけて、特別な衣服は思い切って簡素にすべきだ。
- ・貧乏人ほど普段着せられないから、せめてこんなときだけはとって無駄な見栄を張る。
- ・若い者はあまりにも流行に流されすぎている。
- ・生活全体のバランスのとれていない家庭が少なくない。年寄は見栄や外聞を気にして無理をするし、若い者は自分の生活の欠陥をかくすために無理をしてつき合いをしたり服装などを着かざったりする。
- ・若い者の服装をみると自分の生活と違っているので、ドブ田に鶴という傾向が強い。
- ・貧乏だと言ってぜいたくをしてはいけないとはいわないがもっとバランスのとれた生活をするように努力する気持ちがなければならないのではないか。
- ・自分ではできるからと言って、金をもっている人がぜいたくをするということは道義として許されるべきではない。
- ・デフレであるから、全体的に生活をきりつめなければならぬと思われるのに、人々は依然としてインフレ時のような生活を改めない。
- ・衣料を更生させる技術が低く、上手に使えない。

### ◎食生活の改善

- ・食事が依然として満腹感を主にして考えられている。
- ・米に対する異常な愛着を捨てることができないでいる。
- ・忙がしいのでこんだてを立てたり、計画を立てたりすることができない。
- ・栄養価がどうのビタミンがどうのと言っても、米の飯さえあれば何もいらぬのだという考え方が依然として強い。
- ・食生活の改善をすべきだというようなことをよくいわれるが、一月8000円位な収入しかなくこれで家族7人もが生活していかなければならぬとしたら何とか腹をふさぐだけがせい一

杯でどうにも工夫のしようがない。

- ・こんなに生活の苦しいのは生れて始めてだ。戦争中は誰もそうだったから諦めもできるが今はもうただ腹をふくらますだけでせい一杯である。
- ・食生活の改善が貧困だからできないと一口に片付けてしまうけれども、食生活の改善というようにことをしっかりとやらないから貧困がひどくなっているのではないかと思われるような家庭が少なくない。

### ◎ 住生活の改善

- ・生活の能率化や健康的というようなことよりも 外見とか慣習とかを重んずるという風潮が消えないため、住居の改善が思うようにならないことが多い。
- ・迷信や慣習にとらわれて住居の改善ができない。特に方角が悪いからこちら側に窓を切つてはいけぬとか、大將軍が今年から三年間この方角にいる筈だからそちらの方角はふしんしてはいけぬとかいうようなことが現在でもまだ強く信じられている。

### (ハ) 習慣の改善

- ・結婚式や葬式を簡素化しようというような申し合わせはするけれども、なかなか実行されない。
- ・今迄誰でもそうやってきたのを、急に自分だけそうするわけにはいかない。
- ・近所同志・親せき同志のつき合ひでは、自分のところでそうされてきたのだから、ここで自分のところで急に簡素化してしまったとしたら「あそこの家はけちだとか、変っている」とか言われて、あとあとまでうまくないものを残す。それがいやだから、簡素化するわけにはいかない。
- ・誰一人として簡素化に反対なものはないのだけれども、他人の噂がいやだから簡素化しないのだ。
- ・「なに、少し位無理しても、一度やっしまえばそう何回もあるわけではないのだから」というような考え方で結婚式などが派手になってしまう。
- ・虚栄の世の中になってきたために、一部の人達の間では昔よりも派手にやり無駄な経費を使っているむきがある。
- ・無理をしても、こうしておけば（つき合ひをていねいに金をかけておけば）何かあったというようなときに、世話になりいいからというので、多少の無理をしのんでも、つき合ひを気張るために交際の簡素化というようなことができない。
- ・最近の若い者、中流の家庭同志では交際の簡素化を自覚的に押しすすめようとする人達が増してきた。

### (ニ) 時間の励行

- ・時間の励行はいつの会合でも問題にされていながら、いつになっても実行されない。
- ・足利時間・毛野時間・山辺時間というような時間があるがそれぞれ三十分遅れ一時間遅れなどが半ば定刻になっている。
- ・時間の遅れをだれもあまり気にしないで慣れてしまっている。

### (ホ) 平和意識の昂揚

- ・戦争には反対だけれども、攻めてこられたとき困るから軍備を強化しておかなければならないという考え方が正しいのではないか。戦争反対と軍備放棄とは一緒にできない場合がある

(註) こうした意見は商人・工場主などから特に多くきくことができる。青年の間

にも極めてない。

- いいかげんな軍備をしても、強大国の侵略に対して防ぎきれものではない。兵器の進歩は極めて急速であり、又軍備には膨大な国費を使わなければならない現段階では、いくら軍備に一生懸命になつても日本のような経済力では限界がある。従つて無理して軍備するより国力の充実・復興・民生の安定・生産の向上を図るべきだという考えを深めなければならない。
- 平和は誰だつて望んでいるのではないか。併し望んでも利害がどうしても一致しなければ結局は戦争になるよりほかにしようがないのではないか。……（註）かなり多くあらわれる意見である。特に年輩者に多くあらわれている。
- 新聞やラジオが戦意をあふるようになると人々は新聞やラジオの放送を批判して取り入れるということができていないからそれにつれられてその気になってしまう。
- アメリカやソ連・英国や中国などに対しても、知っていることは何か特別に大きなニュースになるようなことであつて、それぞれの国の大衆の生活を理解して、それに基づいて深く理解しようという態度が作られていない。
- 平和を強く口にするとか何か、特定の政党や特定の国にかぶれているというように考えている人達が少なくない。
- 自分達の生活と平和との関係について深く考えようとしな。むしろ平和は不景氣位にかんがえて不景氣がつづけば戦争するより他にないというようにさえかんがえている。平和即金ずまりではやり切れない。
- 戦争でもあつてあり余る人間がごっそり減つてくれなければ、人間が多すぎるのだからどうにもなりませんよ。……（註）このようなことはをじよう談とも本心ともつかないような人々の意見としてよく耳にする。

#### (へ) 社会教育の充実

- 足利市の市民学校や社会学級はかなりの成果をおさめているように思われる。
- 社会教育課はもつと市民の生活の問題に直接結びついた問題の解決を通じて学ぶことができるような指導をする必要がある。
- いろいろな話をきいても、実際生活には生かせないような話が多い。
- 飯の足しになるような話が極めて少ない。
- 会合があつても忙がしくてでていく暇がない。
- 社会教育課は、もつと他の諸機関・商工組合・労政事務所・基準監督署・農業改良普及事務所・工業試験場などは一緒になつて、より計画的に広汎に地域の教育を推進するように心がける必要がある。
- 映画のようにだれにでも親しめるもので、もつと活発に社会教育を行つてほしい。
- 婦人会の活動もまだいまのところ婦人全体のものとはなつておらず一部の人達だけのものにしかなつていない。
- 青年会も青年の問題を根本的にかんがえていこうとするような会合にはなつていない。
- 指導者を選ぶとき、また従来のように社会的な地位や経済的な力のある人を主にし考えるうごきが強く、地位が低く金もないというような人は、たとえ立派な人であり指導力も備えていると思われるのに支持されない。

#### (ト) 勤労青少年の教育

- 学問をすると理くつばかり達者になつて、やることをやらなくなるから却つてまずいことが

多い。学問させるのもよし悪しだ。……(註)こうした意見は傭主・父兄の間にかなり多くある。そして又、子供達自身も何かそういうことが本当たというように考えて困難な勉強を逃避してしまっているというような風潮がある。

- 勉強したくても仕事をしながら勉強をするというようなことは、使用者側でありよこばない。
- 大工揚か、役所か、さもなければ十人に一人・百人に一人というような理解のあるところにつとめない限り、現在のところでは定時制高校に行く時間はつukれない。
- 残業が不規則であって現在のような定時制高校では、なかなか勉強したくても勉強できない。
- 昼間部の卒業生の方が定時制の卒業生よりも一格上だという考え方が未だぬぐいさらていない。
- 青年学級がもつと充実されて生活に結びついた内容がもりこまれるようにならなければ本ものにはならない。
- 国や地域が勤労青少年教育のために、もつと有効な援助——経済的・精神的——を行うべきだ。昼間部の生徒には国家が莫大な費用をかけているのだから当然勤労青少年の教育についても経済的な援助を行うべきだ。

#### (チ) 幼児教育の振興

- 子供は放っておいても結構大きくなるという考え方が強く、幼児教育に対して深い関心を示す人が極めて少ない。
- 子供の教育に関心を示す人も自分の子供だけよくなればというような競争意識にかられてやっているのだ。
- 仕事の方がいそがしくて子供のことまでかまっていられない。
- 幼児のしつけに対して、多くの家庭が一貫した教育方針をもっていない。
- そのとき限りの感情に流されて叱ったり、可愛がったりしておって理性に裏付けられた深い愛情によって、子供を導くという考え方が足りない。……(註) 僅かではあるがこのような意見もみられた。
- 甘やかしているだけでは子供は決してよくなる。ときにうんとこらしめるところがなければだめである。
- 親達自からの生活を教育的なものにすることが幼児教育にとって何より大切であるのに、それに気付かず、子供達の教育を考えて自分達の生活を律するという態度がつくられていない。……(註) 自覚した僅かな人達の間で行われ、それが徐々に広がろうとしてはいる。
- 私達のように、食に追われる身分では子供達のことまで到底手がまわらない……(註) 極めて多くあらわれる意見である。

#### (リ) 公民館・図書館の増設強化

- 足利の図書館には古い本は多いが新しい本が少ない。
  - 図書館ではもつと市民の要望を入れて本を多く買って欲しい。
  - まだ役所的なところがあつて入りにくいところがある。
  - 何となく入りにくい。
  - 公民館が自分達のためにあるのだという考えが徹底していない。
- 0もう少し図書館の利用を宣伝する必要がある。

#### (ヌ) 青少年の補導対策

・青少年犯罪が多くなって本当に困ったことだ。

・青少年の不良化は皆世の中がわるいからだというけれども、併し同じ世の中においてわるくなるものが少ないのだから悪くなるのは矢張り個人に問題があるのではないか。……（註）不良化の原因を社会的なものに認めている人も心の底ではこういう考え方をもっているように感じられた。

・青少年の犯罪が多いのは社会が悪いからだ。社会全体が一つの目的のためにそれぞれ真剣に生き抜こうという雰囲気を作られれば、悪くなる青少年はぐっと減少するであろう。

・青少年が悪くなるのは、いまの青少年は夢をもち希望をもつことができないからだ。青少年に夢と希望がもてるような政治が行われれば、青少年犯罪は減少するだろう。

・職について働きたくも働らく場所がないのだ。遊んでいては金が入らない。そこで悪事に走ってしまうのではないか。やり甲斐のある仕事を与えてやりたい。

・一度問題を起した青少年に対して、もっと世間が深い理解を示さなければ可憐だし又よくもならない。

・いくら理解しようとしても、一度誤りを起したというような子は、矢張り起さない子に比べれば起し易いのだ。警戒されて多少変な目でみられてもしかたがない。じっとそれに堪え正しく生き抜かなければだめだ。

（ル）郷土を理解し愛郷心をつちかう必要がある。

・従来のようなただ郷土の勝れたところだけを取りあげて観光宣伝にでも使うような郷土教育をやられては意味がないが、現在のように郷土について殆んど取り扱わないようでも困る。平易にしかも重要な点をおさえた郷土教育が考えられる必要がある。

・足利市の地理や歴史について小さいうちから教えてよく学ばせておく必要がある。そうすれば、大人になって足利の発展を真剣になって考えるような子供ができるだろう。

・今迄はいい点は笑のない宣伝文句だけ、悪い点は細大もらず、ずるいとカリ己的などとあげられるだけあげてきている。これからは本当にいい点を見つけ出して取りあげていくことが必要である。

・足利の発展に本当に貢献したところの陰れた人々をさがしその事蹟を明らかにし、子供達に学ばせるということによって子供達の愛郷心を養う必要がある。

・足利が現在のように発展したということの裏に立派な人もあったのだ。又現在だっておるのだから、そういう人を見出すために骨を折らなければならない。

（ヲ）道義をたかめる。

・新しい道徳の確立を早くはからなければならない。

・このごろ自由主義だから勝手気ままなことをしているのだという気持だけが強く考えられて誰も権利だけを主張しがちであるが、権利の反面には必ず義務が付きついているのだということが忘れられ勝ちである。

・新しい道徳というけれども道徳というようなものはそんなに変わるものではないのではないか。……（註）かなり多くの人達の意見としてでてきている。古い道徳を広く解釈して現代的な意味にとっている人と、古のままであるべきだという二つの意見を含んでいる。

・戦後特に道義の頹廢がはげしい。早くもともどもさないと取りかえしがつかなくなってしまう。

◎営業道徳

・人々のなかには一体営業道徳というようなことを考えているのだろうかと思われるようなひ

どいことをしている人がいる。

- 自分だけもうかりさえすれば足利の名声とか、足利の将来にどんな影響をおよぼすのかというようなことについては全くかんがえていないのではないがと思われる人が少なくない。
- 経営が苦しくなると計画的な倒産を行ってしまつて、やがて間もなく違う人の名義で同じ仕事をはじめ。こうしたときにもその人の道義心をあまりうたがわれないような気風がある。
- 戦後のにおか成金のわるいことはわかつておつても、固くやつておつてもどうにもならないのだから、結局、戦後のにおか成金のようなボロいことをやり出すようなことになってしまう。
- 明治のはじめ頃から、足利のものが少し売れ出して景気がよくなるとボロもうけをしようとしてすぐに粗悪品を作り出すということが繰返されてきた。それがため足利の名声は次第々々におちてきて結局現在のような苦境に立たされ、発展がはばまれているのだ。

### ◎交通道徳

- 車の乗り降りのとき多くの人達がそれ程混んでもいないのに先を争つて乗ろうとするような困つた風潮がいつになつてもなおらない。
- 対面交通になつてから交通が却つてあぶなくなつてきた。
- 足利のように極端に道の狭いところでは対面交通は極めてむずかしく、交通規則を守ろうとしても守れないことがある。
- スピード違反と思われるようなスピードを出しているオートバイや自動車が多いように思われる。
- バスやトラックが最近急に大型になり、それでなくてさえ狭く感じられていた道路が急に狭く感じられるようになり夕方などあぶなくて通れない。法規にはなくても人通りの多いところでは、もっとスピードを落してもらいたい。
- 道路を自分の家の物置のようにしたり、又狭いところに露天を出したりしては、よけようと思つてもよけられないのであぶない。

### ◎公衆道徳

- 自分のものは大切にすが公共物は粗末にする。従つて共同使用のものが意外に早くこわれたり、使用に堪えなくなつたりして、共同することによって生れる筈の利点が大きく減殺されてしまう。
- 一口に年寄の考え方は封建的だといつてけいべつしがちであるが、年寄の考え方のすべてが悪いわけではない。年寄の中に、自分のものよりも公共のものは特に大切にしなければならないと言つて、それを実行している。このような点は若い者が特に見習わなければならない点ではないか。
- 農家が共同購入して使用しているモーターや脱穀機などが個人もちの半分も使わないうちにこわれてしまうというようなことが事実としてある。公共物を大切に使うという態度が作られていないからである。
- 公園の草木や街路樹などを、いくら植えても、みるかげもなくいためられてしまつて育たない。
- 大人は子供達が公共物をそこねるようなことをしていてもそれ程きつく叱らない。
- 道路や下水に痰やつばをしたり、ゴミを捨てたりすることを平気である。それ程悪いこととも感じていないのではないかと思われる。
- 結核患者などは特に注意して他人へ感染しないように自からすすんで注意すべきだ。

## ◎性道徳

- 男女の交際が昔のような清純さを失ってきている。
- 男女交際の正しい在り方を理解していない。
- 正しい恋愛観・結婚感がつくられていないから青年の性道徳がすたれてくるのではないか。
- 一部の人達の露骨な性遊技的な男女交際が多く、若者達の男女交際のあり方をゆがめている。
- 極端なエロ映画やエロ本は、不本意ではあるが統制によって禁止するようになさなければならないのではないか。
- 多くの母親達が子供達のために手をたずさえて極端に悪い刺激を与える本を買わないような運動を起すべきだと思う。
- 青年に健全な希望がもてるような世の中にしてやる事ができれば、正しい性道徳も確立することができる。
- 売春やパンパンの問題については生きるためだからしかたがないというような考え方を捨てさせなければならない。

## (フ) 遵法精神の涵養

- 戦後になって特に遵法の気風がすたれてきていた。
- 法律の権威が、ヤミ経済が行われるようになってからは急に地おちた。
- 誰がかんがえても守れないような法律をつくっているのだから、それが守られないからと言ってやむを得ない。
- 法律のぬけ目をみつけて、悪いことをしている人が大きなもうけをしている世の中では、法律が守られなくてもしかたがない。
- このごろの若い者は、悪いことをして刑務所へいくとどのようなことを何とも思っていない。
- ヤミ米を売らなければ、百姓は来年の肥料が買えないのだからしかたがない。
- いくら労働基準法通りにやろうと思っても、小さな工場しかもっていない人達はそれを守ることができない。守らずにやってもつぶれそうなんだから守つたらすぐにつぶれてしまう。
- 法律を守らなければならないことはわかっているのだけれども、現在のようにどう考えても守れないような法律があまりにも多すぎる。

## (カ) 宗教心の涵養

- 宗教心が失われたから現在のように犯罪が増加したのだ。
- 宗教心を養って、しっかりした人格をつくれ。
- 善人をつくるために宗教教育をゆるがせにはならない。
- 児童生徒に宗教教育を行って、心のオアシスを与えることが大切だ。
- 祖先崇拜は戦後消え失せたが、これは孝道の基になるのだ。
- 国民学校のときのように、熱心に宗教教育を行うことがよい。
- 気軽に参加できるような宗教教育を開設する必要がある。
- 神社仏閣を浄化して人々にけいけんの念を起させるようにする必要がある。
- 先祖の供養をしつかりやって、子供達の心の中にあるおいをもたせることが必要だ。
- 各人がめいめい何かの宗教をもつことが大切だ。
- 宗教的な行事をもっと盛んに行うように。
- 戦争反対も宗教教育を徹底させればできる。
- 目に見えた利益を伴わない宗教のようなものについての関心がうすい。



- ・宗教家はもつと社会事業に力を入れなければならない。
- ・宗教家はもつと市民の直接的な福利増進のために精魂をかたむけるべきだ。
- ・死人をおがむだけの宗教だったら今の時代にはなくてもいい。
- ・大衆を濟度し得るような宗教家がでて欲しい。
- ・眞の宗教を徹底させなければならない。
- ・古来のよい宗教をひろめて、いかがわしい宗教を一掃すべきだ。
- ・迷信に惑わされるものがまだ少なくない。
- ・こんな世の中では神も仏もあつたものではない。
- ・特定の人しか本当に深い関心をもっていないだろう。苦しいときの神だのみ位で丁度よいのさ。
- ・宗教を食いものにしてしているような宗教家も少なくないため宗教そのものまでもうたがわれる

### (ヨ) 芸術の振興

- ・芸術祭を単なる祭だけにおおらせないで芸術振興の眞の機会とするようにすべきだ。
- ・芸術祭も現在のようにバツとやっただけでは殆んど役に立たない。もつと継続的な仕事として行うようにして欲しい。
- ・公会堂を新設して芸術品を常時展覧できるようにして欲しい。
- ・市在住の芸術家を再認識し、発表会等に際しては市でもつと援助すべきだ。
- ・芸術に対する市の援助は全般的に低い。しかも低だけでなく特定のものに限られているという嫌がある。
- ・アマチュア芸術家の会の結束をはかり市民全体の芸術のレベルを高める必要がある。
- ・中央との交流をはかる必要がある。
- ・音楽会の回数をふやし又絵の展覧会などももつと宣伝し、より一層の発展の方策をたてる必要がある。
- ・芸術に対する市民の目と耳を高めておく必要がある。そうでないと勝れた芸術が生れてこない。
- ・芸術は人々に希望をもたせ、生きる力を与えるという意味から是非必要である。
- ・市民の芸術に対する関心は概して低く又浅い。
- ・もう少し金とひまができたならやっしていきたい。今は忙がしくて芸術どころではない。……  
(註) こうした意見は極めて多い。
- ・ドブの上に絵をかざつてもしかたがないだろう。もつと現実の生活を何とかしてからでなければ、絵や音楽などの芸術は我々とは極めて縁遠い存在だ。

### ◎ 与論調査のあとがきとして

一応このように整理して課題を把握するために手がかりにしたのであるが、整理に当り、期日を急いだため、いろいろな問題を残している。特に、被調査者の応答と更にはこのような応答とその場の雰囲気などから我々の導き出した課題とがごっちゃになってあげられていたり、又もう少し検討すれば他の意見や悩みの中にも含まれるような項目が重複してあげられているのではないかと思う。今次の報告に際しては、このような点についてもう一度検討を加えて出した方がよいのではないかとも思われたけれども、併し又考えてみればすでに発表された目標は、実際にはこのような充分な整理をとげられなかつた調査をよりどころにして設定されたものであり、ありのままに報告して現場の御批判を仰ぎます点は今後改めていくべきであると考えて、そのままの形で発表するわけである。